

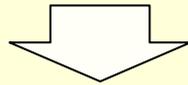
紀伊コスモス支援学校園部分校 における情報教育の枠組み

情報教育（じょうほうきょういく）とは、情報を扱う能力を高めることによって、学習者が情報社会の中で主体性や創造性を発揮できるようになることを目的とする教育のことである（フリー百科事典『ウィキペディア』より）。
情報教育で何を扱うかについては、文部科学省などが「情報活用能力」を伸ばすことを提案している。

情報教育部

情報教育部の目的

- ① IT機器や教材・教具など情報手段（ツール）を活用した教育や校内のIT化をすすめ、子どもたちが学習に慣れ親しむ場を設定する。
（情報教育の意義）



情報活用能力の育成（子ども側からの視点）

- ② 子どもたちによりよい情報の提供及びそれらの指導の提案ができるように、情報教育について知識を深める。（職員の研修の意義）
- ③ 校内ネットワークをよりよく活用できるように整備し、情報収集や情報提供をとおして、職員間での情報交換の場を作り、サポートする。
（職員の情報活用及び研修の意義）
- ④ 開かれた学校づくりをするための情報を収集し、本校の取り組み等を発信する。（開かれた学校づくりの意義）

情報活用能力の育成

教科「情報」で求められる「情報活用能力」に基づく3つの目標をわかりやすく表現し、本校における情報教育の目標とする。これらの3つの目標は単独で存在するのではなく、相互に関係し合っている。

園部における情報教育の目標

①情報活用の実践力の育成

②情報の科学的な理解の育成

③情報化社会に参画する態度の育成

①自己選択・自己決定できる力を養う

②必要な情報を主体的に収集・活用し、表現・発信・伝達できる力を養う。

③様々な場面や情報に対して望ましい態度や判断ができる力を養う(情報モラル等を含む)。

※ここでいう「情報モラル」とはインターネットや携帯電話に限らず、例えば図書室の好ましい利用方法を学習するなど幅広く捉えていくものとする。

情報教育部の役割

子どもへの情報教育に対する役割

情報教育はコンピュータなどの情報機器だけを活用するものではなく、幅広い情報ツール（手段）の窓から適切な手段を選択することが大切である。

今年度情報教育部として、子どもの日々の学習において「子どもたちがわくわくドキドキするような授業を目指して」のテーマを掲げ、情報手段の活用について検証し、その活用の有効性を提案していくように努力していきたい。

職員の情報活用に対する役割

職員の情報活用の環境を整え、情報教育の推進や校内事務等が円滑に行われるようにそれらの有効性や改善点を提案していくことが役割である。

効果的な
情報ツールの窓

その①「わくわくドキドキする
ような授業」を目指して

情報ツールを活用しながら体験も盛り込んだ指導

写真や動画、図書、イラスト等の様々な情報ツールを活用して、子どもたちの興味・関心や理解、体験を深めることができる可能性。以下は今までの園部の実践の一例です。

・おはなしのくにでのこどもたちの発表(ツール:紙芝居)

手作り紙芝居をとおして自分の思いをのせた読みきかせの発表。

・事前事後学習(ツール:写真、動画、プロジェクタ、作文など)

写真や動画を用いた行事の見通し。行事の後、作文や感想を発表。

・ポスター作成(ツール:ポスター)

行事に向けてのポスター作り。行事への期待感。

・教材、教具の活用(ツール:教材、教具)

例えば子どもたちの興味・関心やコミュニケーションを深める手段。

効果的な
情報ツールの窓

その②「わくわくドキドキする ような授業」を目指して

情報ツールを活用しながらやりといを大切にしたい指導

写真や動画、図書、イラスト等の様々な情報ツールを活用して、「やり(教師→子ども)」と「とり(子ども→教師)」の発信、受信のやりとりを丁寧に行っていくことが大切だと思います。やりとりを積み重ねていくことにより、子どもと教師がつくりあげていく授業に近づくと考えられます。あくまでも「やりとり」とは良いプロセスや結果だけを示すものではありません。「やりとり」ではなく、「やりやり」にはならないように心掛けたいものです。以下は今までの園部の実践の一例です。

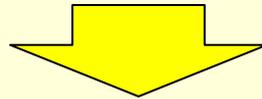
- **こどもたちのおはなしへ向けての取り組み(ツール:図書、紙芝居など)**
課題別学習において教師とのやりとりを軸に自分の思いを主体的に表現・伝達し、紙芝居で再び発表。
- **視覚聴覚情報を活用した学習(日々の実践)(ツール:写真カード、絵、音声、パソコン、プロジェクタ、OHP、作文など)**
プリント学習。教科で学習したことをその他の生活場面で確認する活動など。
- **おはなしのくに(ツール:図書、情報機器、ポスターなど)**
絵本に慣れ親しみ、イメージの世界をひろげる活動など。
- **情報モラル指導(ツール:図書紙芝居、図書記入カード、携帯電話、インターネットなど)**
紙芝居をとおした図書室の好ましい活用方法。パソコンの正しい使い方など。

**効果的な
情報ツールの窓**

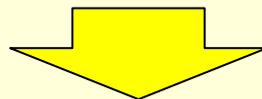
**「情報教育」のとらえ方・すすめ方
のあくまでも一例**

個々の子どもが、学習を進めるにあたり、どこに困り感があり、情報ツールの活用をとおしてこういった指導(援助)を行えば、その困り感を軽減することができるのか問題意識をもつ。

子ども側の視点に立って、さらに学習意欲が高まり、教育効果上がるようにどの情報ツールを活用すればよいのか模索しながら日々実践に励む努力をする。



パソコン、インターネット、情報関連機器、図書活用だけでなく幅広い発想で情報ツールを活用し、指導(援助)の工夫をしていく。



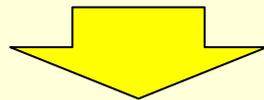
活用した情報ツールが果たしてよかったのかどうか、実践をとおして検証し、その活用の有効性を問いただしていく。

もっとわかりやすく
説明すれば...

「情報教育」の概念

個々の生徒が、学習を進めるにあたって、
どこに困難性があり、どういった支援を行えば、
その困難性を軽減できるか。

子どもの立場に立って、その学習意欲がもっとも
高まり、もっとも教育効果が上がるように取り組む



柔軟な発想で学習活動の工夫をすることが大切！